

学 校 名	北海道砂川高等学校	就 職 支 援 教 員 名	藤崎 善行	
1 活動状況等				
4月	研究計画の立案、高等学校進路指導対策会議参加			
5月	キャリアプランニングスーパーバイザー（以下、CPSV）との情報交換、模擬面接指導開始（3年次）			
6月	ハローワークとの情報交換、中小企業家同友会参加			
6月～8月	企業訪問、卒業生インタビュー			
7月	空知教育局と卒業生インタビューについての情報交換			
9月	就職選考開始、インターンシップ（2年次）、CPSVによるキャリアカウンセリング（3年次）			
9月～	未内定生徒への指導（3年次）			
12月	OB講演会の実施、高等学校就職促進マッチング事業参加（1、2年次）			
2月	中小企業家同友会にて、研究成果発表「離職率調査と分析」			
2月～3月	研究成果のまとめ			
3月	研究実績報告書の提出			
2 研究の成果と課題				
(1) 就職後3年以内に離職する早期離職の改善に向けた企業等との連携方策について				
<ul style="list-style-type: none"> ・企業訪問を行い、離職率調査を行った（85社、別添資料）。また、仕事を継続している卒業生に対しインタビューを行ったことにより、仕事を継続できている理由が明らかになった。 ・企業訪問した際、離職した卒業生の離職理由について聞き取り調査を行ったことにより、離職した卒業生と仕事を継続できている卒業生との相違点が明らかになった。 ・ジョブスタや職業講話、高等学校就職促進マッチング事業等を通して、生徒の進路実現のために必要な職業観を意識付けることができた。 ・学校が得られる卒業生の離職に関する情報は多くないため、引き続き企業との連携を綿密に図る必要がある。また、離職者からも離職理由等について情報収集を行う必要がある。 				
(2) 公共職業安定所やキャリアプランニングスーパーバイザー（進路相談員）等と連携した、就職に関わる効果的な支援方策について				
<ul style="list-style-type: none"> ・3年次生を対象として、CPSVによるキャリアカウンセリングを行い、就職活動の心構えや所作を身に付けることができた。 ・教育局指導主事から、卒業生インタビューについての助言があり、効果的な聞き取り調査を行うことができた。 				
(3) 上記(1)(2)に係る成果の普及について				
<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年2月、中小企業家同友会に参加して、本研究の成果発表を行った。今後、成果をまとめた冊子を作成して、関係企業や管内高校に配布するとともに、本校の全教員で情報共有を行う予定である。 				
3 次年度以降への改善策				
<ul style="list-style-type: none"> ・来校した企業の担当者に対して、就職した卒業生の動向についての情報収集を積極的に行うとともに、企業や離職者に対して、聞き取り調査またはアンケート調査を行い、学校に求めるキャリア教育の内容や離職理由等についての情報収集に努める。 ・本研究の成果を教員間で共有し、生徒の望ましい職業観や主体的な進路選択の能力を育成するため、3年間を見通した計画的・系統的なキャリア教育の全体計画を構築する。 				
4 参 考				
○内定率等（2月末現在）				
	年 度	就 職 希 望 者 数	内 定 者 数	内 定 率
	令和元年度	59	55	93.2%
	平成30年度	38	38	100%